

3. [その他の課題について]

三刀屋町会場（三刀屋交流センター）

Q 2 5 : 高窪の肥育センターからセシウムに汚染された堆肥が運び出されているが、残った建物はどうするのか。建物は J A で土地は市だと思うが、建物を撤去して土地を市に返還されるのか、建物はそのままにされるのか。仮に壊される場合は、土地の利用方法について考えがあるのか。個人的には、太陽光発電が良いと思っている。

A : セシウムに汚染された堆肥について、J A 雲南で受け入れ先を決められ現在搬出中である。皆様方には大変ご迷惑をおかけした。J A 雲南で責任をもって処理され、市は J A 雲南に協力し対応していく。

肥育センターの建物は J A 雲南のものだが、建物については取り壊されるお考えである。今後については、J A 雲南と雲南市で相談して決めないといけないが、土地の利活用については、地元の皆様ともご相談をしながら決定していきたいと考えている。

なお、太陽光発電のためには送電線の整備等が必要であり、条件が整わないとできないが、そういった利用もひとつの手法だと思うが、これから地元の皆さんとも相談をしながら検討していきたい。(産業振興部長)

Q 2 6 : 永井隆記念館について、原爆投下（終戦）から 6 8 年も経過したわけだが、この間記念館も建てただいて今日に至っているが、先日外国で原爆投下後の悲惨な状態を漫画化され、多くの外国の方がそれを讀まれて感動されたという報道があった。6 8 年も経過しているが、文章ひとつでも世界に感動は伝わるものだと感じた。

さて、永井隆記念館の外観の修繕やつつじを撤去して歩道を作る等、記念館の見直しをお願いしたい。具体的に、外国の方が感動された漫画等を入れていただいたり、あるいはおはなし会で子どもたちに漫画を見せながら 6 8 年前の思いを伝えていくということが大事ではないかと思う。

A : 漫画の話もあったが、わかりやすい情報発信をということの例えではないかと思う。日本のアニメが海外でも受け入れられてきている。そのひとつに原爆で被災された方々の悲惨さというものが漫画で情報発信されていること、素晴らしい手段であると思う。

永井隆記念館の PR については、できることはやっていきたい。工夫の余地はある。また、記念館については、議会から永井隆記念館の価値そのものをより高めると同時に観光スポットとしての位置づけも考える必要があるのではないかと、それにしても古くなったので建替える必要があるのではないかとのご提言もいただいている。平成 2 7 年度からの第 2 次総合計画にどういった位置付けにするのか検討しているところである。(市長)

Q (再質問) : 以前島根県西部で水害が発生した際に、個人的に支援をした記憶がある。先日の島根県西部の豪雨災害について、雲南市として何か支援をする考えはないか？

A : 昭和 5 8 年に発生した島根県西部の水害からもう 3 0 年にもなるが、本当に大変な被害であった。その際と同じ状況が島根県西部地域で発生しており、本当に大変な状況であろうと思っている。島根県西部の災害支援については、岡山県総社市長が津和野町へ職員派遣を行うことを言っておられた。県内の近隣市町が職員派遣しなくて良いのかと考えたが、今のところ津和野町等に職員の派遣をということは考えていない。雲南市も掛合町の入間と波多で非常に強い雨が降った。幸い大きな被害には至らなかったが、いつ同じような豪雨が雲南市で起こるかかわからない。市としては、このような災害が起きてはならないので、そうならない対策を考えることが行政を扱う私の勤めであるし、雲南市職員の心構えだと考えている。この時期に、災害から雲南市を守る対策を講じることを第一に心掛けているところであるのでご理解いただきたい。(市長)

Q 2 7 : 緊急放送について、現在、雲南市はケーブルを使って緊急放送を行っているが、山崩れや崖崩れ等に

よりケーブルが切断された場合、今後どのような対処をされるのか伺う。

三刀屋町は各地区に外部スピーカーがあり放送をしている。緊急時に役に立つと考えているが地区全域まではカバーされていない。交流センターにケーブルの機器が付いているが、これを使って外部スピーカーから放送が流せないか伺う。

熊の目撃情報について、熊が目撃された場合、放送が流されるが、町境付近の場合はどのように放送されているのかを伺う。

A：ケーブルの告知放送が使えない場合の対策について、来年度から調査に入るが、防災行政無線の整備をすることを考えている。具体的な内容については、これから詰めていくところだが、少し時間をいただきたい。これだけで十分かというところ、そういうわけではないが、放送の多重化が重要であると考えているので、引き続き検討をしていく。また、地区のスピーカーを使ってどういった対応ができるのか、この場でお答えはできないが、総合センターと確認をしながら検討させていただきたい。(総務部統括危機管理監)

A：熊の目撃情報の対応について、目撃情報が総合センターや市役所に入ると、速やかに注意喚起の告知放送を流すようにしている。それと同時に、警察署、教育委員会、高校及び猟友会の皆さんにお知らせをしている。ご指摘の隣接している場合については、総合センターと雲南市役所で連絡を取り合っており、隣接している総合センターでも同様の対応をするように申し合わせをしている。またあわせて文字放送を使って熊に遭遇した場合の注意喚起も行っている。市内全体へ向かって「今年は熊が多い」という情報提供も行ってきたところである。また、市のホームページ等でも熊に遭遇したときの注意事項や出没情報を掲載しているので参考にさせていただき、熊の遭遇にはご注意ください。(産業振興部長)

Q28：自治会運営交付金について、自治会運営補助と行政連絡業務対価と一緒に自治会会計口座に振り込まれている。行政連絡業務対価は自治会長の個人口座に直接振り込んでもらえないか？

小学校の統合について、市議会議員さんが会報でメリットデメリット色々書いておられた。三刀屋町では今年中野小学校が統合した。他の小学校は今後どうなるかわからないが、10年や20年先の子どもの人数がわかるのであれば、メリット、デメリットいろいろあるにしても、子どもはこれから一生競争していく中で、学年が一桁しかないのであれば、中学校に入学したときに人間関係が難しいといわれるので、子どもの将来を考えるとできるだけ早く統合した方が子どもにとっていいんじゃないかと思う。昔は子どもの数も多かったのだが、今は少人数で遠い距離を歩いて帰っており非常に危険極まりないと実感している。人数が大きいところでもまれることも、子どもにとって大きな力にもなると思う。そういうところを考えていただきたい。

A：自治会運営交付金の行政連絡業務対価については、自治会によって、個人に渡ったり、自治会の中で使用されたりと対応はまちまちである。基本的には年度当初に各自治会に振込先を確認した上で、自治会口座へ振り込みをさせていただいているが、別が良いとのことであれば対応させていただく。(総務部長)

A：小学校の統合については、子供たちにとって何が一番大事なのか、これを一番大切にしていかなければならないと考えている。そういう中で一定の基本方針を出させていただき、説明をしてきた。おっしゃるように、先の見通しを考えた中で、本当に子どもたちにとってどういう学校のあり方が一番いいのか、話し合いを通しながら合意形成がはかられれば統合していきたいと考えている。(教育長)

Q29：公園について、三刀屋地区にトイレと手洗いの付いた野球ができるような広い公園を設置する考えはないか？子どもたちが遊ぶ広い場所が全く無いのが現状である。市として今後整備する考えはあるのかお聞かせ願いたい。

A：市内の都市計画区域内には都市公園を設けているが、大東町、加茂町及び木次町にある。三刀屋町には、明石緑が丘公園がある。まずはそういったところを使用させていただきたい。仮に公園を設置することとなった場合は、当然検討は必要だが、雲南市の特長のある所に施設を設置するか、既存施設の充実化を図るような

ると思われる。(建設部長)

Q (再質問) : 特別支援学校が開校する話があるので、そうなれば、また子供が増える。確かに明石緑が丘公園はあるが三刀屋地区からでは遠い。昔は、三刀屋高校のグラウンドで遊んでいたが、今は使用できない。子どもが遊ぶと汚れるから、トイレがあって手が洗えるような施設が一つくらいあってもいいんじゃないかと思う。三刀屋の町に土地がないのはわかっているが、河川敷も遠いしトイレも無いし、何かいい方法は無いものか？

A : 時間帯によって三刀屋小学校や三刀屋中学校が空いている時は、積極的に開放していきたいと考えている。(教育長)

Q 30 : 投票率について、中野の投票所は1か所になったが、1か所になる前となった後の中野地区の投票率と雲南市全体の投票率はどうなったのか？また、臨時バスの利用状況はどうだったのか？

A : 投票率について、雲南市合併当初の投票所は103か所あったが、直近の参議院選挙では38か所となっている。投票率については年数が経過しているので比較にはならないし、市長・市議選挙や国政選挙によって投票率は変わってくるが、平成19年に行われた参議院選挙では雲南市全体の投票率は81.32%だった。先般の参議院選挙の投票率は前回70.13%だった。このことが、投票所数が少なくなったことが直接影響しているのかはわからないが、臨時バス等の配慮をしながら投票所数を絞ったところなので、ご理解をいただきたい。なお、臨時バスの利用は、ほとんどない状態だった。(総務部長)